

授業科目名	音楽療法の技能Ⅱ	担当形態	講義		
		開講学期	春学期		
担当教員	長江 朱夏	単位	2	年次	2

＝授業のテーマ及び到達目標＝

- 音楽療法実践で必要となる音楽上の柔軟性と心構えを身につける
- 臨床即興に必要な基礎的なスキルを身につける
- 臨床即興に必要な様々なスケール（音階）や音楽要素を学び、音楽リソースを広げる

＝履修の条件と学習の方法＝

課題やマテリアルについては、各自練習の上授業に臨むこと。実技テストは適宜授業の中で行う。実技テスト予定日に無断欠席した場合は、再試の対象とならないので注意。

楽器の準備と片付けは、受講生全員で協力して行うこと。

授業を欠席する場合は、担当教員への事前連絡をすること。また、翌回までにクラスメイトに授業内容と課題を確認し、必要であれば教員を訪ね次の講義へ備えること。

＝授業の概要＝

様々な音階やリズムを実際に楽器に触れて体験的に学ぶことを通し、音楽療法の実践活動に適用した柔軟に対応できるためのスキルを養う。グループを対象に音楽活動をする際に必要な基礎的な対応力と、個別に必要なとされる“オーダーメイド”の音楽創りの重要性を理解し、そのテクニックを学ぶ。本科目は基本的に鍵盤（ピアノ、キーボード）のテクニックを中心に行う。

※日本音楽療法学会で認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要な科目である。主専攻以外の学生が取得する場合は、音楽療法について学ぶ意欲を持っていること。また、音楽療法総論も履修していることが望ましい。

＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：シラバスの説明、1音での即興
- 2回 黒鍵ペンタトニック、ムードを変える
- 3回 ムードを変える要素、感情表現の即興
- 4回 白鍵ペンタトニックそしてモード、モードで気をつけること
- 5回 クライアントに合わせて即興するという事
- 6回 リズムグループの中で基本拍を作る
- 7回 リズムグループのリード
- 8回 モードのおさらい、他の音階（沖縄音階他）
- 9回 これまでのおさらい
- 10回 2和音+メロディーの即興
- 11回 コード進行を捉える、骨組みを理解する
- 12回 ベースの進行、典型的な和声進行
- 13回 グループ即興を支えるセラピストの音楽
- 14回 即興と曲のアレンジ
- 15回 これまでのおさらい
- 16回 期末テスト

=テキスト（必携）=

授業中に随時配布する。

=参考書・参考資料（必携）=

授業中に適宜紹介する。

=成績評価の方法と評価の基準=

授業内において、次のような基準を設ける。出席率 25%。実技テスト各 10 点、点数が高い評価のもの 5 項目を総合評価へ採用（ペントニック、モード、ムードを変える、その他の音階、基本拍を提供する、和声進行をつかった即興、リズムグループのリード、など）。おさらい課題 10 点（10%）。授業態度（15%）。

学期中の実技テストについては、不合格の場合、翌週に再試を行う。

=その他=